

参考資料

1 将来の展望

(1) 人口の見通し

●将来人口総数

墨田区の人口は、2024（令和 6）年 4 月 1 日時点で、285,784 人です。将来人口推計では、今後も人口の増加傾向は続きますが、2035（令和 17）年の約 30 万 7 千人をピークに減少していく見込みです。

2050(令和 32)年には、今の人口より少なくなることが想定されます。

図表 1 将来人口（総数）（各年 4 月 1 日時点）



（墨田区推計）

●年齢区分別人口

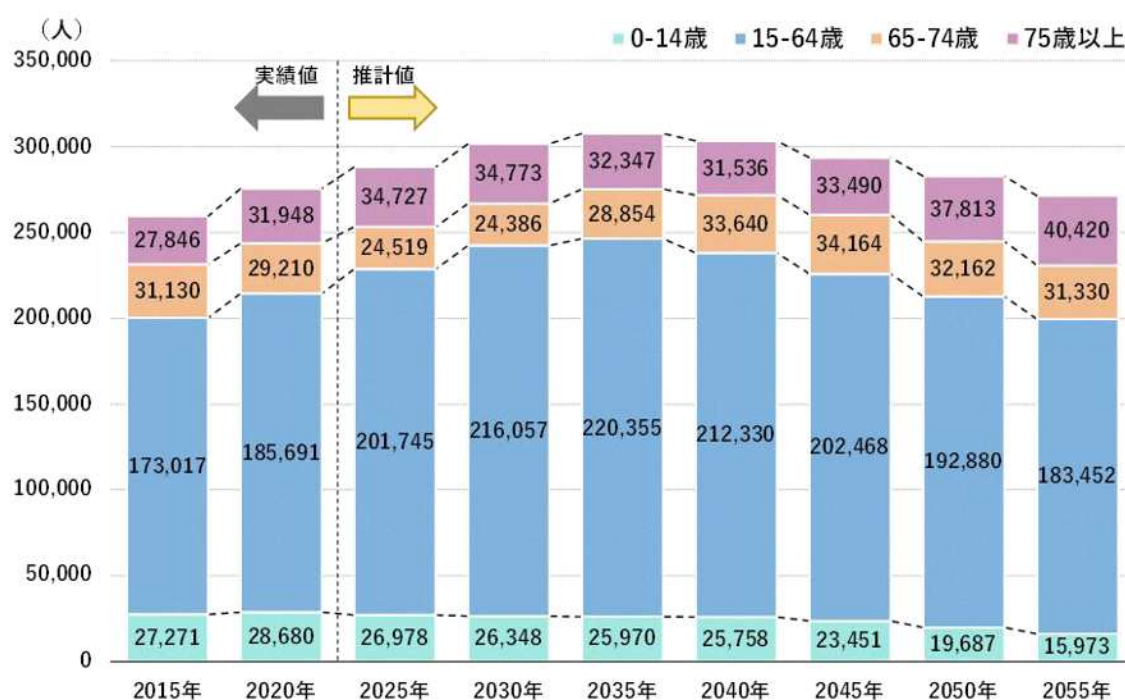
年齢区分別にみると、0～14 歳（年少人口）は今後も減少していきます。

15 歳～64 歳（生産年齢人口）は増加傾向にありますが、2035（令和 17）年をピークに減少に転じる見込みです。

65 歳～74 歳（前期高齢者人口）は 2030（令和 12）年にかけて減少しますが、その後 2045（令和 27）年にかけて増加し、以降再び減少に転じる見込みです。

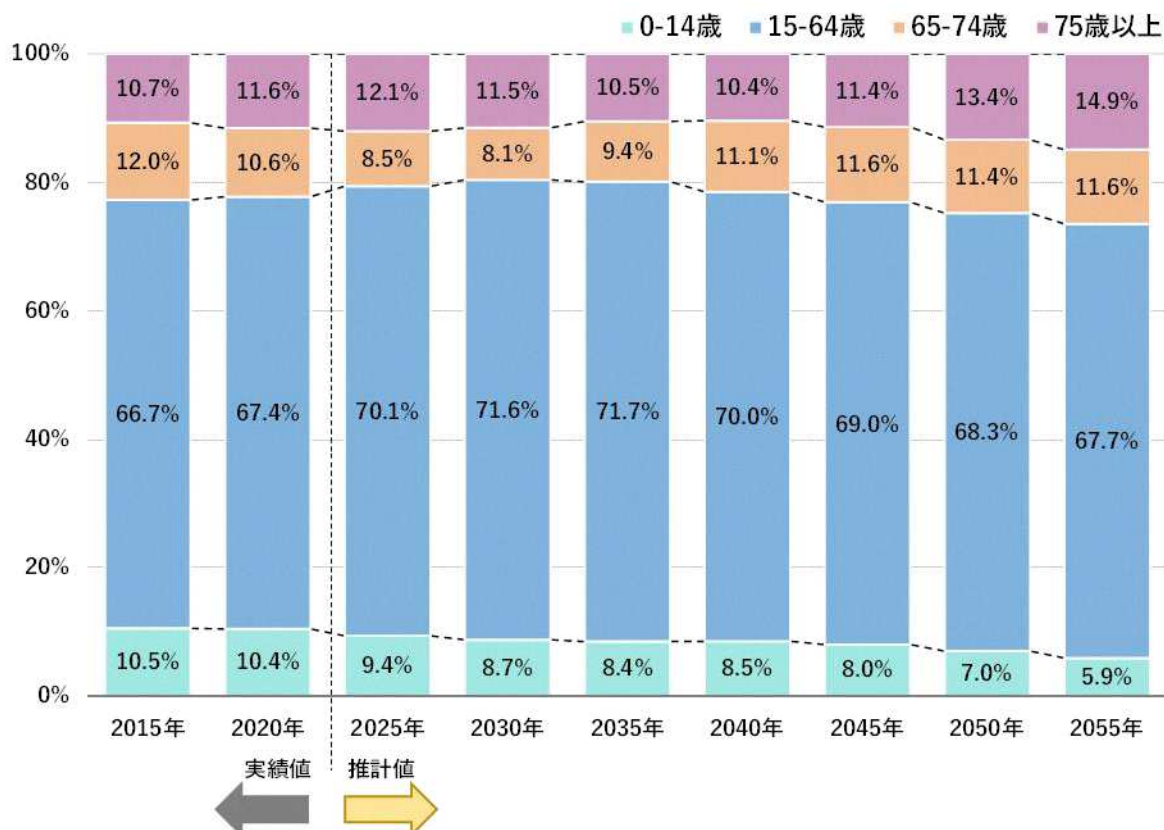
75 歳以上（後期高齢者人口）は 2030（令和 12）年にかけて増加しますが、その後減少し、2040（令和 22）年以降は再び増加に転じる見込みです。

図表 2 年齢区分別人口（各年4月1日時点）



（墨田区推計）

図表 3 年齢区分別人口構成比（各年4月1日時点）



（墨田区推計）

(2) 今後予想される社会

以下のような社会経済情勢の潮流を踏まえ、基本構想の検討を行いました。

◆高齢者人口の増加

生活環境、食生活の改善、医療技術の進歩等により、平均寿命は更に延び、日本全体で 2040 年頃まで 65 歳以上人口が増加すると予想されています。医療・年金・介護などの社会保障費の増大や、支える側の担い手不足などが懸念されており、健康寿命の延伸や地域で安心して暮らし続けられる環境づくり、一人ひとりに合った活躍できる場づくりが必要となっています。

◆少子化の進行

全国的に出生数は年々減少してきており、今後もその傾向が続くものと予想されます。年少人口の減少は、将来的な社会の担い手の不足につながります。保護者が安心して子どもを生み育てられる、また、子ども自身が健やかに成長できる環境づくり、すべての子ども・若者が身体的・精神的・社会的に幸せな状態（ウェルビーイング）で生活できる「こどもまんなか社会」の実現が求められています。

◆激甚化する災害への対応

気候変動に伴い、自然災害が激甚化・頻発化しており、首都直下地震等の巨大地震の発生も懸念されています。災害の発生を予測することは困難ですが、これまでの災害から得た経験、教訓を踏まえて、災害対応を不断に見直していくことが重要です。いのちを守るとともに、社会経済への影響を最小限にとどめ、円滑かつ迅速な復興・復旧が行われるよう、すべての人が当事者の意識を持って、平時から防災対策に取り組んでいく必要があります。

◆地域コミュニティの希薄化

都市部において、世帯構成や働き方の変化、生活様式の多様化等により、町会・自治会などの地域コミュニティへの加入率が低下する傾向が見られています。一方で、災害時の助け合いや、ひとり暮らし高齢者が増加する中での見守りなど、地域コミュニティの役割は一層大きくなっており、様々な組織・団体等が連携しながら、持続可能な地域社会づくりに取り組んでいく必要があります。

◆デジタル社会の進展

国を挙げて取組が進められており、デジタル化に対する不安に配慮しつつも、先端技術の活用を含め、社会の様々な分野においてデジタル実装が進むと予想されます。誰もがあらゆる場面でデジタル化の恩恵を享受でき、豊かさを実感できる、誰一人取り残されないデジタル社会の実現が求められています。

◆産業構造の転換

グローバル化の進展、サービス産業の成長、AIなどのデジタル技術の活用、GXの推進、原材料価格の高騰、人手不足、生産性の向上、賃上げの促進等、産業を取り巻く環境は大きく変化しています。雇用の7割を支える中小企業の稼ぐ力の強化、変革の後押しなどの推進や、スタートアップの創出・育成の加速、官民協働の推進等、産業構造の転換を見据えた取組が必要となっています。

◆循環共生型社会

地球環境は、気候変動、生物多様性の損失、化学物質やマイクロプラスチック等による汚染という3つの危機に直面していると言われており、個人、地域、企業、国、地球がいわば「同心円」の関係にあるとして、一人ひとりが意識し、行動することが求められています。日常生活や経済活動など、あらゆる活動の局面において、地球環境への負荷軽減に向けた取組を推進することが必要となっています。

◆外国人との共生

生産年齢人口の継続的な減少を背景として、外国人材の受け入れの進展に伴い、外国人人口の増加傾向が続いています。インバウンド（訪日外国人観光客）の増加も相まって、外国人との共生に配慮した地域社会づくりが求められています。今後も、こうした傾向が続くことを想定し、受け入れる側、受け入れられる側の双方が共生の理念を理解し、安全・安心に暮らせる共生社会の実現に向けた取組が必要となっています。

2 区民参画

以下のとおり区民等から意見を伺い、基本構想の検討に活かしました。

●アンケート調査

内容	実施期間	回答数
区のイメージに関するアンケート	令和 5 年 8 月～9 月	744 人（回答率 24.8%）
転出入者アンケート	令和 5 年 8 月～9 月	1,177 人（回答率 29.4%）
区のイメージに関する web アンケート	令和 5 年 9 月	188 人
すみだのミライアンケート（3 回） （web アンケート）	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 2 月	162 人

●区内団体ヒアリング

実施期間	参加団体数
令和 6 年 1 月～2 月	23 団体

●区民ワークショップ

内容	実施日	参加者	テーマ
第 1 回	令和 6 年 7 月 13 日	12 人	・ 区の好きなところ、改善すべきところ ・ 10 年後のめざすまちの姿、実現に向けて必要な取組
第 2 回	令和 6 年 7 月 21 日	19 人	

●こどもからの意見聴取

内容	実施日	対象者
千葉大学との連携	令和 6 年 8 月～9 月	「なつのあそび大学」こどもの国企画メンバー
こどもまんなか ワークショップ	令和 6 年 9 月 29 日	ジュニア・リーダー31 人 （中学生 18 人、高校生 13 人）
すみだ『こども』 タウンミーティング	令和 6 年 10 月 19 日	区内小学 5 年生 40 人

●オープンハウス型説明会

	実施日	内容
第 1 回	令和 6 年 10 月 5 日、6 日	すみだまつり・こどもまつり会場へのブース出展
第 2 回	令和 6 年 10 月 22 日～24 日	区役所 1 階アトリウムでのパネル展示

3 審議会委員名簿

墨田区基本構想審議会は「墨田区基本構想の策定等に関する条例」第3条に基づき設置され、基本構想の策定について審議を行いました。

区分	氏名	所属団体、役職等
公募による区民	相澤 純一	公募区民
	木村 優太	公募区民
	佐藤 祥子	公募区民
	真鍋 文朗	公募区民
	山口 亮	公募区民
識見を有する者	阿部 貴明	丸源飲料工業株式会社 代表取締役社長 (前東京商工会議所墨田支部会長、元墨田区観光協会理事長)
	井上 佳洋	墨田区商店街連合会 事務局長
	○上野 武	千葉大学 名誉教授
	老田 勝	東京商工会議所墨田支部 会長
	角山 剛	東京未来大学 名誉教授
	◎加藤 久和	明治大学政治経済学部 教授
	金谷 直政	京島地区まちづくり協議会
	鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会
	岸 成行	北斎通りまちづくりの会
	駒村 康平	慶應義塾大学経済学部 教授
	佐久間 之	公益財団法人墨田区文化振興財団 常務理事
	島田 泰子	墨田区スポーツ推進委員協議会 会長
	庄司 道子	墨田区障害者団体連合会 会長
	杉山 達雄	立川四丁目町会 会長
	鈴木 みゆき	國學院大學人間開発学部子ども支援学科 教授
	須藤 正	曳舟中町会 会長
	西村 孝幸	墨田区私立保育園協会 会長
	平林 秀敏	墨田区立中学校 PTA 連合会
	星野 喜生	墨田区老人クラブ連合会 会長
	森山 育子	一般社団法人墨田区観光協会 理事長
	山室 学	公益社団法人墨田区医師会 会長
	山本 俊哉	明治大学理工学部建築学科 教授

※区分毎に五十音順

※◎は審議会会長、○は審議会副会長

4 審議会開催状況

●全体会

回	開催日	主な審議内容
第1回	令和6年5月29日	諮問、委員委嘱、会長選出・副会長指名、 審議会の運営方針 ほか
第2回	令和6年6月26日	新たな基本構想の策定に向けた論点整理について
第3回	令和6年12月16日	各部会の分野別審議のまとめ
第4回	令和7年2月20日	まちづくりの基本理念、将来像について
第5回	令和7年3月27日	答申案のまとめ
第6回	令和7年5月19日	答申

●部会

第1部会【産業振興、文化・スポーツ、観光・シティプロモーション】

回	開催日	主な議事
第1回	令和6年7月25日	自由審議
第2回	令和6年8月19日	産業振興について
第3回	令和6年9月27日	文化・スポーツについて
第4回	令和6年10月28日	観光・シティプロモーションについて
第5回	令和6年11月25日	部会のまとめ

第2部会【福祉（地域福祉、高齢者、障害者）、子育て・教育、健康・保健衛生】

回	開催日	主な議事
第1回	令和6年7月25日	自由審議
第2回	令和6年8月29日	地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉について
第3回	令和6年9月27日	子育て・学校教育について
第4回	令和6年10月28日	健康・保健衛生について
第5回	令和6年11月25日	部会のまとめ

第3部会【地域活動、まちづくり、防災・防犯、環境】

回	開催日	主な議事
第1回	令和6年7月25日	自由審議
第2回	令和6年8月22日	地域活動、防災・防犯について
第3回	令和6年9月27日	景観・水辺空間、環境について
第4回	令和6年10月28日	まちづくり・都市基盤について
第5回	令和6年11月25日	部会のまとめ